

一般演題6 O6-4

高気圧酸素治療における治療中止症例の検討

杉山知泰¹⁾ 長谷川将太¹⁾ 船田寿成¹⁾水野琢呂¹⁾ 三輪直毅¹⁾ 加藤恭浩¹⁾水谷喜雄²⁾ 斎藤史郎²⁾ 金田英巳²⁾山田実貴人²⁾

1)	社会医療法人厚生会	木沢記念病院	臨床工学課
2)	社会医療法人厚生会	木沢記念病院	救急部門

【はじめに】

高気圧酸素治療を施行する際にスクイー징や閉所恐怖症等によって中止せざるを得ない事例が見受けられる。そこで、当院での治療時に中止せざるを得なかった症例を調査したので報告する。

当院では治療前にCEが治療全体の流れを説明し、耳抜きについてやり方を実践して見せて、説明をしている。

【方法】

2018年4月～2019年5月までのHBO施行した237例（男性137例女性100例）を対象とし中止となった件数を調査した。初回治療時に中止になった患者の疾患と性別、年齢、中止理由の調査をした。

【結果】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
男	1			1	1	2	4	1	1
女			1		3		1	1	
疾患				中止理由					
突発性難聴			6	耳抜き不可		16			
イレウス			7	不穩		1			
出血性膀胱炎			1	初回以外の中止理由					
難治性潰瘍			1	気管チューブの痰づまり				2	
CLI			2	不穩				2	
				腹痛, 排便				2	

【考察】

初回中止となった症例は17件で全体の7.1%であった。

当院ではHBO施行前に臨床工学技士による治療の説明と耳抜きの説明を行っているが耳抜きに対する理解不足の可能性があるので、説明内容の検討も必要である。

耳抜きが困難な患者も一定数いると考えられるため、耳抜き困難患者に対して加圧する際は考慮が必要である。気管切開をした患者へHBOを行うことはチューブ閉塞のリスクを考慮した患者観察が必要である。

【結語】

中止原因の大半は耳抜き困難による耳痛であった。

中止症例を減少させるために実施前の説明に工夫が必要である。